

■山鼻小学校の実践

(1) 研究内容

「サッポロピリカコタンにおいて、体験的な活動を通して、アイヌの文化について理解し、互いの文化を尊重する学習」

(2) 学習活動を通して育てたい力

・文化の多様性を理解し、互いの文化を尊重できる力を育てる。

(3) 実践の内容

【実践】「ピリカコタンにおける体験学習」について

○ねらい

・昔のアイヌの子どもたちは、狩りの仕方について、遊びを通して習得していったことに気付くことで、アイヌの文化について理解する。



○学習内容

サッポロピリカコタンで、狩りを模倣した子どもの遊びを体験した。投げ突き輪遊びでは、2人1組になって、一人が輪を投げて、もう一人が木の枝を使って、輪に通す活動を行った。学校に戻ってきてから、「どうしてアイヌの子どもたちは投げ突き輪遊び」を行っていたのか問うことで、昔のアイヌの人たちが狩りを行って生活をしてきたことや、子どもころから、遊びを兼ねて狩りの練習を行っていたことを知ることにつながっていった。

(4) 成果と課題

① 成果

サッポロピリカコタンでは、昔のアイヌの人たちの生活に触れることができるという点が大きいです。投げ突き輪遊びは、準備をすれば学校でもできる遊びですが、施設には数がたくさんあるので、多くの子たちが同時に活動できる場所が良い。また、教師がアイヌ文化について教えるよりも実際アイヌ民族の方がかかわったほうが、子どもたちの興味関心が違いました。多くの物に触れ、たくさん話を直接聞けることがサッポロピリカコタンで学習する最大の良さであると思います。

② 課題

今回のサッポロピリカコタンでの学習内容は、「アイヌの子ども遊び」と「アイヌ文様切り絵」の2つの交流体験からの選択であった。選択肢が多数あると、各学校の子どもたちの実態に合わせて、選ぶことができると思う。